

航路改善計画住民説明会（口永良部島）



平成28年7月29日

屋久島町 財産管理課 船舶係

航路の概要

宮之浦～口永良部・島間航路

就航船舶について

船舶名	就航年等
太陽丸	昭和47年12月28日 口永良部～宮之浦に就航 昭和48年4月5日 宮之浦～島間を延伸 総トン数52t ※太陽国体開催の記念もあり「太陽丸」に決定
第2太陽丸	昭和57年5月1日 就航 総トン数199t
フェリー太陽	平成9年6月13日 就航 総トン数408t 平成16年2月2日 波の侵入を防ぐため改造 総トン数499t

■ 特記事項

平成25年12月17日～平成26年3月7日

漂流事故により運休

平成26年5月29日～平成26年12月28日

新岳の噴火により全島民が避難し、宮之浦と口永良部は運休

宮之浦と島間は通常ダイヤで運航

フェリー太陽主要々目(建造時)

1. 主要寸法等

長さ(全長)		53.02m
長さ(登録)		46.30m
長さ(垂線間)		46.00m
幅(型)		10.50m
深さ(型)		3.80m
総トン数	←平成16年に改造し、499トンに	408トン
燃料油タンク		40.26kℓ
清水タンク		16.03m ³
旅客定員		100名
速力	公試最大	16.5ノット
	航海	15.7ノット
最大搭載車両能力	乗用車9台	
	または、中型バス2台+乗用車3台	
資格		JG沿海区域

2. 機関関係

主機関	ダイハツディーゼル6DKM-26(L)	
	1800ps × 720R/M	2基
プロペラ	かもめFPP × 4翼	2基
補機関	ヤンマーディーゼル6HAL2-DTN	2基
	271ps × 1200R/M	
発電機	大洋電機TWY31C	2台
	AC225V × 225KVA × 1200R/M	
機関監視装置	データロガ	1式
	日本無線電気サービス	

3. 甲板機械

航海計器	トメキック 4T-M	1台
揚 錨 機	内田油圧 5T × 18M	2台
係船ウインチ	内田油圧 3T × 30M	4台
荷役クレーン	南 星 0.95T	1台
車両リフター装置	内田油圧 15TONf	3台
サイドスラスタ	かもめプロペラ 3TONf	1台
空調装置	ダイキン	6台

4. 無線装置

レーダー	古野電気(株) FR1425	1台
カラーGPSプロッタ	古野電気(株) GP-3100	1台
音響測探機	古野電気(株) FCV-291	1台
G M D S S 設備	古野電気(株)	1式

5. 特殊装置

衛星放送受信装置	新日本製鐵	1式
監視モニターテレビ装置	特機システム電機	1式
機関室CO ₂ 消火装置	川重防災	1式
リモコン式探照灯	大洋電機3KW	1台
空冷式冷凍冷蔵庫	ホシザキ電機1521ℓ	1台

6. 電装工事

星光電機

7. 内装工事

長崎船舶装備

8. 監 理

長崎船舶コンサルタント

旅客定員

一等客室(航海船橋)	(座席)	20名
二等客室(航海船橋)	(椅子席)	25名
二等客室(船首楼甲板)	(椅子席)	7名
二等客室(船首楼甲板)	(座席)	31名
二等客室(上甲板ロビー)	(椅子席)	7名
二等客室(上甲板喫煙室)	(椅子席)	10名
合 計		100名
臨時旅客(船首楼甲板)	(座席)	18名
(航海船橋甲板)	(椅子席)	32名

乗組員数

6名

搭載車輛

中型バス(4T積トラック) × 2台 乗用車 × 5台

航行区域

沿海区域

建造費 6億7,700万円

航路及びダイヤについて

航路



フェリー太陽のダイヤ



偶数日	09:50 着 ←	08:10 発
	10:30 発 →	12:10 着
	13:00 発 →	14:05 着
	15:50 着 ←	14:45 発

奇数日	09:00 発 →	10:05 着
	11:50 着 ←	10:45 発
	14:40 着 ←	13:00 発
	15:10 発 →	16:50 着

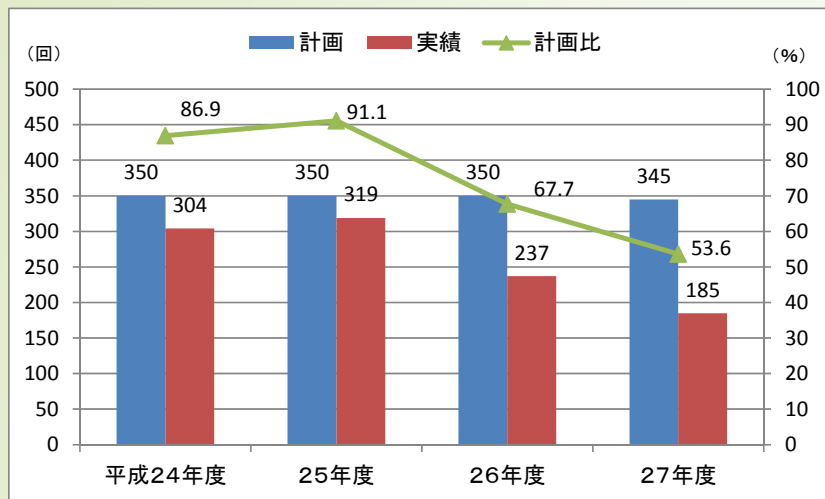


港間距離	45km	30km
------	------	------

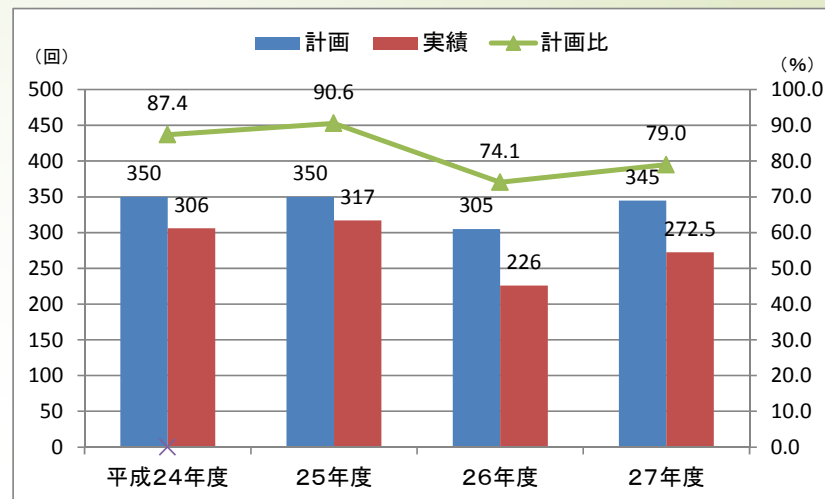
航海時間	1:40	1:05
------	------	------

◆運航回数（計画、実績、就航率）

【宮之浦～口永良部】



【宮之浦～島間】



【宮之浦～島間の欠航状況】

※平成24年度、平成25年度は荒天や中間検査による欠航がみられたものの、計画航海数に対して運航実績の割合は9割と高かった。

※平成26年度は漂流事故により運休、平成27年度は新岳の噴火による全島民避難により、宮之浦港と口永良部島の区間は運休し、宮之浦港と島間港の間を臨時ダイヤで運航した。この結果、計画航海数に対する運航実績の割合は、平成26年度67.7%、平成27年度53.6%となった。

年度	区間	欠航日数又は回数							検査実施期日		
		荒天	入渠	機関故障	定期検査	中間検査	臨時検査	その他	定期	中期	臨時
27年度	宮之浦～口永良部	54	-	1	-	18	-	10	-	2月7日 ～ 2月24日	-
	宮之浦～島間	54	-	1	-	28	-	10	-	-	-
26年度	宮之浦～口永良部	37	45	-	-	31	3	4	-	2月5日 ～ 3月7日	7月2日 ～ 7月4日
	宮之浦～島間	37	45	-	-	31	3	4	-	-	-
25年度	宮之浦～口永良部	24	-	-	-	17	-	6	-	2月4日 ～ 2月20日	-
	宮之浦～島間	25	-	-	-	17	-	6	-	-	-
24年度	宮之浦～口永良部	38	-	-	-	14	6	5	-	3月3日 ～ 3月16日	6月15日 ～ 6月20日
	宮之浦～島間	35	-	-	-	14	6	5	-	-	-

屋久島での乗り継ぎ（宮之浦 - 口永良部）について

★鹿児島との船便の接続は、フェリーは比較的に良いが高速船は待ち時間が長くなっている。

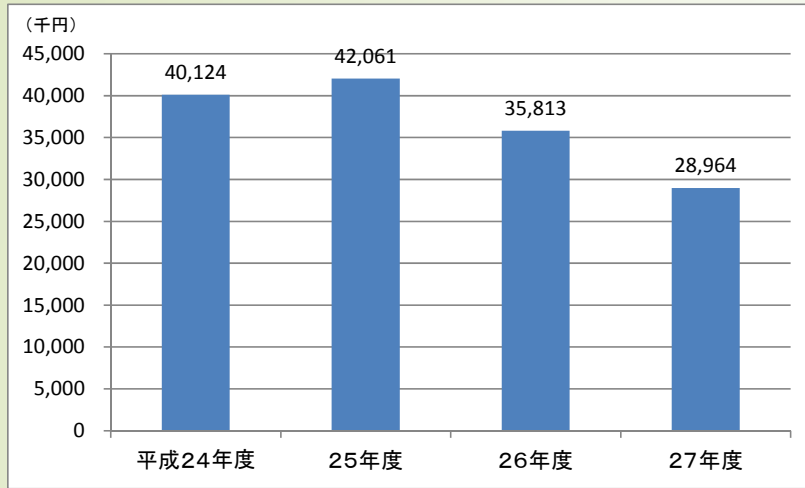
偶数日				接続便	
口永良部	宮之浦	乗り継ぎ			
9:50 ←	8:10 ←			はいびすかす 宮之浦着07:00 ← 鹿児島(谷山港) 前日18:00発(種子島経由)	
10:30 →	12:10 →			フェリー屋久島2 宮之浦発 13:30 → 鹿児島着 17:40 高速船 安房発 13:30(13:30) → 鹿児島着 15:30(15:30) 宮之浦発 16:00(15:40) → 鹿児島着 18:40(18:20) 宮之浦発 17:00(16:00) → 鹿児島着 19:05(18:05)	
奇数日				接続便	
口永良部	宮之浦	乗り継ぎ			
14:40 ←	13:00 ←			フェリー屋久島2 宮之浦着 12:30 ← 鹿児島発 08:30 高速船 宮之浦着 10:10(10:10) ← 鹿児島発 07:30(7:30) 種子島経由 宮之浦着 09:45(09:45) ← 鹿児島発 07:45(07:45) 指宿経由	
15:10 →	16:50 →			高速船 宮之浦発 17:00(16:00) → 鹿児島着 19:05(18:20) 指宿経由	

注) 高速船は夏ダイヤと冬ダイヤがあり、()は冬ダイヤ

航路の利用実績

【運賃収入の推移（旅客・手荷物・自動車航送・貨物）】

(単位:千円、%)

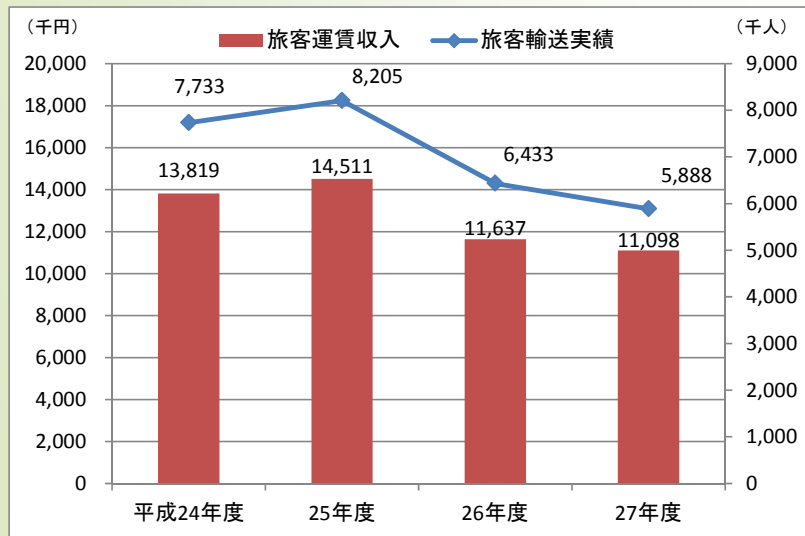


	平成24年度		25年度		26年度		27年度	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比
旅客運賃収入	13,819	34.4	14,511	34.5	11,637	32.5	11,098	38.3
自動車航送運賃収入	19,273	48.0	20,586	48.9	17,459	48.8	13,666	47.2
貨物輸送運賃収入	6,865	17.1	6,729	16.0	6,548	18.3	4,040	13.9
手荷物運賃収入	167	0.4	235	0.6	169	0.5	160	0.6
合計	40,124	100.0	42,061	100.0	35,813	100.0	28,964	100.0

- ★漂流事故や新岳の噴火に伴う運休から、平成26年度、平成27年度は運賃収入が減少。
- ★運賃収入の内訳をみると、自動車航送運賃収入が全体の5割、旅客運賃収入は4割をそれぞれ占めている。

【旅客輸送実績】

(単位:人、%)

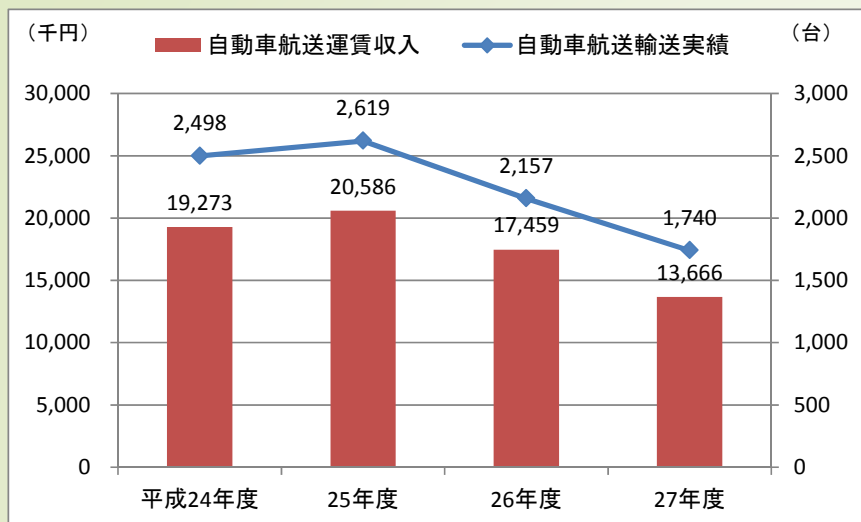


	平成24年度		25年度		26年度		27年度	
	旅客数	構成比	旅客数	構成比	旅客数	構成比	旅客数	構成比
口永良部←宮之浦	2,350	30.4	2,466	30.1	2,068	32.1	1,326	22.5
口永良部→宮之浦	2,430	31.4	2,435	29.7	2,008	31.2	1,406	23.9
島間←宮之浦	1,297	16.8	1,414	17.2	916	14.2	1,368	23.2
島間→宮之浦	1,557	20.1	1,791	21.8	1,354	21.0	1,756	29.8
口永良部←島間	49	0.6	48	0.6	43	0.7	21	0.4
口永良部→島間	51	0.7	53	0.6	45	0.7	12	0.2
合計	7,733	100.0	8,205	100.0	6,433	100.0	5,888	100.0

- ★旅客数は、平成25年度は8,205人であったが、平成27年度は5,888人となった。
- ★平成25年度の旅客数を区間別にみると、宮之浦－口永良部が往復で4,901人（構成比59.8%）、宮之浦－島間が3,205人（同39.0%）となった。

【自動車航送実績】

(単位:台、%)

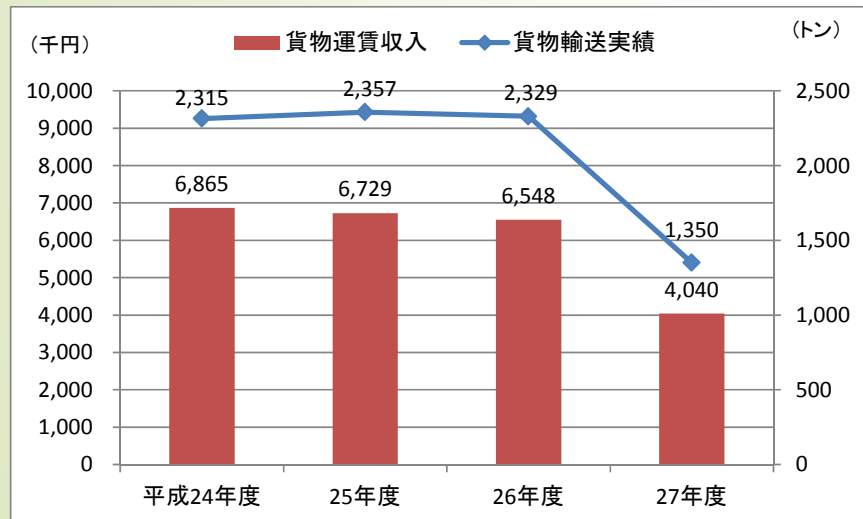


	平成24年度		25年度		26年度		27年度	
	輸送実績	構成比	輸送実績	構成比	輸送実績	構成比	輸送実績	構成比
口永良部←宮之浦	621	24.9	691	26.4	612	28.4	351	20.2
口永良部→宮之浦	621	24.9	661	25.2	603	28.0	357	20.5
島間←宮之浦	611	24.5	611	23.3	450	20.9	526	30.2
島間→宮之浦	599	24.0	612	23.4	454	21.0	486	27.9
口永良部←島間	19	0.8	16	0.6	19	0.9	11	0.6
口永良部→島間	27	1.1	28	1.1	19	0.9	9	0.5
合計	2,498	100.0	2,619	100.0	2,157	100.0	1,740	100.0

- ★自動車航送台数は、平成25年度は2,619台であったが、平成27年度は1,740台となった。
- ★平成25年度の自動車航送台数を区間別にみると、宮之浦－口永良部が往復で1,352台（構成比51.6%）、宮之浦－島間が1,223台（同46.7%）となった。

【貨物輸送実績】

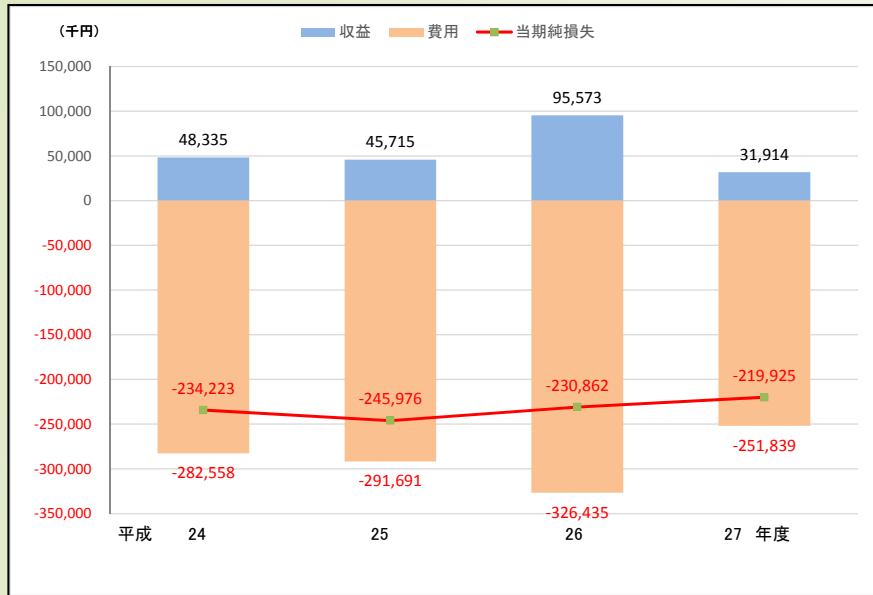
(単位:トン、%)



	平成24年度		25年度		26年度		27年度	
	輸送実績	構成比	輸送実績	構成比	輸送実績	構成比	輸送実績	構成比
口永良部←宮之浦	1,161	50.2	1,199	50.9	1,201	51.6	560	41.5
口永良部→宮之浦	773	33.4	740	31.4	847	36.4	433	32.1
島間←宮之浦	163	7.0	109	4.6	112	4.8	134	9.9
島間→宮之浦	120	5.2	300	12.7	160	6.9	209	15.4
口永良部←島間	12	0.5	3	0.1	7	0.3	1	0.1
口永良部→島間	86	3.7	5	0.2	3	0.1	13	1.0
合計	2,315	100.0	2,357	100.0	2,329	100.0	1,350	100.0

- ★貨物輸送実績は、平成25年度は2,357トンであったが、平成27年度は1,350トンとなった。
- ★25年度の貨物輸送実績を区間別にみると、宮之浦－口永良部が往復で1,939トン（構成比82.3%）、宮之浦－島間が409トン（同17.3%）となった。

航路収支について



- ★ 運航収入を運航費用が大幅に上回り、毎年2億円を超える赤字を計上しており、これを国庫補助金、鹿児島県の補助金で補っている。
- ★ 平成26年度は、船舶事故に伴い船舶修繕費が1億2千万円と大幅に増加する一方で、船舶保険金5,600万円が営業雑収入に計上され、収益及び費用ともに増加した。
- ★ 燃料潤滑油費は、燃料油価格の低下から、大きく減少している。一方、船舶修繕費は平成27年度が7,500万円となり、船員費と同程度まで増加している。

	平成24年度 (H23. 10. 1~ H24. 9. 30.)	平成25年度 (H24. 10. 1~ H25. 9. 30.)	平成26年度 (H25. 10. 1~ H26. 9. 30.)	平成27年度 (H26. 10. 1~ H27. 9. 30.)	構成比
1. 収 益					
A 運 航 収 益	43,765	45,700	39,459	31,713	99.4
1. 旅 客 運 賃	13,845	14,511	11,637	11,098	34.8
2. 手 荷 物 運 賃	167	235	169	160	0.5
3. 小 荷 物 運 賃	0	0	0	0	0.0
4. 自 動 車 航 送 運 賃	19,273	20,586	17,459	13,666	42.8
5. 貨 物 運 賃	6,865	6,729	6,548	4,040	12.7
6. 郵 便 航 送 料	3,615	3,615	3,622	2,725	8.5
7. 雑 収 入	0	24	24	24	0.1
B 営 業 収 益	4,570	15	56,114	201	0.6
1. 航 路 付 属 施 設 収 入	0	0	0	0	0.0
2. 雑 収 入	4,570	15	56,114	201	0.6
収 益 計	48,335	45,715	95,573	31,914	100.0
2. 費 用					
A 運 航 費 用	269,552	278,109	299,160	237,007	94.1
1. 旅 客 費	2,241	2,246	2,338	1,510	0.6
2. 手 荷 物 取 扱 費	12	16	14	38	0.0
3. 小 荷 物 取 扱 費	0	0	0	0	0.0
4. 自 動 車 航 送 取 扱 費	2,106	2,223	2,063	1,581	0.6
5. 貨 物 取 扱 費	494	506	587	331	0.1
6. 郵 便 取 扱 費	0	0	0	0	0.0
7. 燃 料 潤 滑 油 費	104,379	114,029	81,721	69,074	27.4
8. 養 缶 水 費	226	228	164	196	0.1
9. 港 費	7,059	7,086	8,779	9,523	3.8
10. 雑 費	948	896	856	1,011	0.4
11. 船 費	152,087	150,879	202,638	153,743	61.0
(1) 船 員 費	80,072	79,485	79,739	75,767	30.1
(2) 船 舶 備 品 費	1,060	1,036	744	744	0.3
(3) 船 舶 消 耗 品 費	1,590	1,951	696	1,198	0.5
(4) 船 舶 修 繕 費	68,698	67,491	120,628	75,102	29.8
(5) 雑 費	667	916	831	932	0.4
B 営 業 費 用	13,006	13,582	27,275	14,832	5.9
1. 保 險 料	1,804	1,867	1,996	2,436	1.0
2. 税 金	604	639	864	925	0.4
3. 利 子	223	0	0	0	0.0
4. 減 価 償 却 費	216	95	21	21	0.0
5. 賃 貸 (備 船) 料	539	536	13,457	548	0.2
6. 航 路 付 属 施 設 費	69	179	136	80	0.0
7. 店 費	9,551	10,266	10,801	10,822	4.3
費 用 計	282,558	291,691	326,435	251,839	100.0
3. 差 引 当 期 純 利 益 (純 損 失)	△ 234,223	△ 245,976	△ 230,862	△ 219,925	

航路改善計画書策定の経緯

町営の「宮之浦～口永良部・島間」航路は、口永良部島の唯一の公共交通機関として昭和47年12月より運航をはじめ、口永良部島民や観光客、生活必需品等の物資の輸送を行っております。

近年、輸送人員の低迷や船体の老朽化による修繕費等の費用の増加により、その経営状況は極めて厳しく、国・県の離島航路補助金を受けて運航を維持している状況です。

現状の経営環境のまま推移した場合、サービス水準の低下や航路収支の悪化により将来的な航路の維持・確保が困難な状況となることが懸念されておりますので、国の定める離島航路補助制度を活用し、航路及び航路を取り巻く社会環境や航路を利用する島民の意向・実態等を把握し、現状と課題を整理したうえで多角的な視点から航路診断と経営診断を行い航路運営又は航路経営での問題点や課題の把握及び分析し、その結果を踏まえて問題点や課題を解消するための具体的な方策として、航路改善計画を策定することとなりました。

航路改善協議会の設置

計画策定にあたり「航路改善協議会」を平成28年5月2日に設置いたしました

(委員)

氏名	所属職名
荒木 耕治	町長
岩川 浩一	副町長
塩川 文博	教育長
寺田 猛	議会代表
樋口 博	鹿児島運輸支局
仲澤 純	鹿児島県交通政策課長
森山 文隆	総務課長
貴船 森	口永良部島本村区長
畠 喜人	口永良部島湯向区長
山本 みさこ	税理士

(オブザーバー)

氏名	所属職名
齊藤 徳篤	(独) 鉄道建設・運輸施設整備支援機構
福永 徳郎	熊毛支庁屋久島事務所長
鶴田 洋二	企画調整課長
松田 純治	建設課長
大木 辰巳	フェリー太陽船長
久木山 栄一	口永良部島海運関係者

